

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成25年11月28日 (2013.11.28)

【公表番号】特表2010-515797(P2010-515797A)

【公表日】平成22年5月13日 (2010.5.13)

【年通号数】公開・登録公報2010-019

【出願番号】特願2009-545166(P2009-545166)

【国際特許分類】

C 0 8 G 18/10 (2006.01)

C 0 8 G 18/65 (2006.01)

C 0 9 D 175/04 (2006.01)

C 0 9 D 175/06 (2006.01)

C 0 9 D 175/08 (2006.01)

C 0 9 D 5/02 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 G 18/10

C 0 8 G 18/65 A

C 0 9 D 175/04

C 0 9 D 175/06

C 0 9 D 175/08

C 0 9 D 5/02

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年10月2日 (2013.10.2)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 4 3 】

プレポリマー（プレポリマー A）を 7 0 に冷却し、次に 3 2 . 0 g（3 1 6 . 8 9 0 m m o l）のトリエチルアミンをこれに加え（C O O⁻ 当量に対するトリエチルアミン当量 = 9 0 %）；1 0 分後、6 5 にて、6 0 0 g の中和されたプレポリマーを、1 0 . 9 g の界面活性剤 1 を含む 1 8 にて冷却した 1 0 0 0 . 3 g の水中に、激しく攪拌しながら 1 0 分で分散させた。ヒドラジン水和物の 2 4 . 3 6 % 水溶液 1 0 6 . 0 g を、1 5 分で滴加した。延長段階の間、3 6 の最高温度に達した。3 0 分間攪拌した後に、2 2 4 0 c m⁻¹ における I R スペクトル中の - N C O ピークは、消失した。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 4 5 】

例 I I ~ I V

プレポリマー A（例 I に記載したように合成した）からのアルカリ金属水酸化物を用いた揮発性アミンを含まない水性ポリウレタン分散体の調製。

例 I I

1 1 . 6 7 g の界面活性剤 1 および 1 5 . 2 g の水酸化カリウム（C O O⁻ 当量に対する水酸化物当量 = 9 0 %）を含み、1 8 に冷却した 1 0 8 8 . 8 g の脱塩水中に、6 5

に冷却した 600 g のプレポリマー A を、激しく撹拌しながら 14 分で分散させる。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0047

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0047】

例 III

11.6 g の界面活性剤 1 および 10.8 g の水酸化ナトリウム (COO^- 当量に対する水酸化物当量 = 90%) を含み、18 に冷却した 1080.7 g の脱塩水中に、65 に冷却した 600 g のプレポリマー A を、激しく撹拌しながら 14 分で分散させる。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0049

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0049】

例 IV

11.5 g の界面活性剤 1 および 11.4 g の水酸化リチウム (COO^- 当量に対する水酸化物当量 = 90%) を含み、18 に冷却した 1067.5 g の脱塩水中に、65 に冷却した 600 g のプレポリマー A を、激しく撹拌しながら 14 分で分散させる。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0052

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0052】

プレポリマー (プレポリマー B) を、65 に冷却した。

9.6 g の界面活性剤 1 および 10.8 g の水酸化リチウム (COO^- 当量に対する水酸化物当量 = 90%) を含み、18 に冷却した 893.2 g の脱塩水中に、65 に冷却した 500 g のプレポリマー B を、激しく撹拌しながら 14 分で分散させる。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0055

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0055】

得られたプレポリマー (プレポリマー C) を 70 に冷却し、28.9 g (286.070 mmol) のトリエチルアミンを、撹拌しながらこの中に加える (COO^- 当量に対するトリエチルアミン当量 = 90%) ; 温度を 65 にて 10 分間保持した後に、650 g のプレポリマー C を、18 に冷却した 820.5 g の脱塩水中に、激しく撹拌しながら 10 分で分散させる。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0059

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0059】

例 VII

9.3 g の水酸化ナトリウム (COO^- 当量に対する水酸化物当量 = 90%) を含み、

1 8 に冷却した 8 7 8 . 0 g の脱塩水中に、 6 7 に冷却した 6 5 0 g のプレポリマー C を、激しく攪拌しながら 1 0 分で分散させる。

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 6 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 6 1】

例 I X

9 . 8 g の水酸化リチウム (C O O ⁻ 当量に対する水酸化物当量 = 9 0 %) を含み、1 8 に冷却した 8 6 8 . 3 g の脱塩水中に、 6 7 に冷却した 6 5 0 g のプレポリマー C を、激しく攪拌しながら 1 0 分で分散させる。

【誤訳訂正 9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 6 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 6 6】

例 X I ~ X I I I

プレポリマー D (例 X に記載したように合成した) からのアルカリ金属水酸化物を用いた水性アニオン性ポリウレタン分散体の調製。

例 X I

1 0 . 8 4 g の水酸化カリウム (C O O ⁻ 当量に対する水酸化物当量 = 9 5 %) を含み、 1 8 に冷却した 1 0 5 7 . 1 g の脱塩水中に、 6 5 に冷却した 6 5 0 g のプレポリマー D を、激しく攪拌しながら 1 0 分で分散させる。

【誤訳訂正 1 0】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 6 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 6 8】

例 X I I

7 . 7 3 g の水酸化ナトリウム (C O O ⁻ 当量に対する水酸化物当量 = 9 5 %) を含み、 1 8 に冷却した 1 0 5 1 . 9 g の脱塩水中に、 6 5 に冷却した 6 5 0 g のプレポリマー D を、激しく攪拌しながら 1 0 分で分散させる。

【誤訳訂正 1 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 7 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 7 0】

例 X I I I

8 . 1 2 g の水酸化リチウム (C O O ⁻ 当量に対する水酸化物当量 = 9 5 %) を含み、 1 8 に冷却した 1 0 4 3 . 3 g の脱塩水中に、 6 5 に冷却した 6 5 0 g のプレポリマー D を、激しく攪拌しながら 1 0 分で分散させる。

【誤訳訂正 1 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 7 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 7 3 】

プレポリマーを 8 0 に冷却し、1 3 . 8 g (1 2 4 . 4 6 4 m e q) のポリイソシアネート 2 を、攪拌しながら加える。尚存在する遊離の - N C O 基の決定により、約 5 . 5 1 重量 % の計算値が得られた。

7 0 に冷却した 4 0 0 g の得られた中和されたプレポリマー (プレポリマー E) を、
5 . 8 8 g の水酸化リチウム (C O O ⁻ 当量に対する水酸化物当量 = 9 3 %) を含む 5 9
4 . 0 g の 1 8 に冷却した脱塩水中に、 1 0 分で分散させた。